

山口市議会報告

Y o m a g u c h i C i t y C o u n c i l R e p o r t

vol.29



発行責任者 山口市議会議員 竹中一郎

地球温暖化対策「今こそ取り組むべき！」

～今の暮らし、そして子供たちの未来の暮らしを守るために～

平年より早く梅雨明けし、連日の猛暑が続いています。水不足が心配される中、他方では集中豪雨やゲリラ雷雨といった尋常ではない雨が降っている地域もあります。取り返しがつかなくなる前に私たちにできることを考えていく必要があります。

令和7年 第2回山口市議会定例会 **質問と答弁**

脱炭素先行地域の取組について

▶質問

脱炭素先行地域における山口グリーンエネルギー(株)による公共施設への電力供給の現状と目的や効果を伺う。

▶答弁

本市が民間企業等と共同出資により設立した山口グリーンエネルギー(株)では、市清掃工場の廃棄物発電及び太陽光発電による再生可能エネルギー電力を、市役所本庁舎や湯田温泉こんこんパーク等、27の公共施設に供給している。地産の再生可能エネルギーの活用による地域経済の好循環を目指すもので、小売電気事業を通じて得られた利益の地域への還元、公共施設の電気料金の削減の他、雇用の創出等も見込んでいる。



山口市新本庁舎と屋上の太陽光発電施設

▶議会での主張

新本庁舎における山口グリーンエネルギー(株)による電力供給について、電気がどこで発電されて、どのように供給されているのか市民にわかりやすくイメージ図等で掲示し、理解を得ることが必要である。

▶答弁

現在の取組をしっかりと見える化していくことは必要だと認識している。市本庁舎をはじめ公共施設においてどういう掲示の仕方が可能で、効果的なのか検討する。

浸水対策について

▶質問

豪雨への備えとして緊急時の仮設ポンプの配備が必要だと考えるが、現在の状況について伺う。

▶答弁

大内地域では問田の姫山台団地下の水路と中村橋付近、山口合同ガス付近の3箇所に配備する。このうち、中村橋については工事用の排水ポンプ3台と、昨年から運用している排水能力の高いハイドロポンプとの併用として準備をしている。山口合同ガス付近については、工事用のポンプと、上下水道局が運用している排水ポンプ自動車との併用で対応している。

▶議会での主張

浸水被害軽減に向けて、その他の地域でもポンプ排水が必要となった場合の対応に万全を期して準備するよう要望する。



ハイドロポンプHS60(配備する中村橋付近にて撮影)

Achiro's Eye
気づいたこと感じたこと

我が国は、四季ではなく「二季」になったという話があります。長く猛暑が続いた後は急に寒くなって雪が降る…。四季の移ろいは確かに感じにくくなりました。地球温暖化の影響である「二季」は農作物をはじめ私たちの暮らしや健康にも大きな影響を与えています。すぐに結果がでないからこそ市民の皆様にもご理解いただき、少しずつでも取り組んでいきたいと私は強く感じています。

質問と答弁

山口県農業試験場跡地周辺の 渋滞対策について

▶質問

県道山口防府線の現在の渋滞状況について伺う。

▶答弁

令和3年度全国交通街路交通調査によると、県道山口防府線の渋滞状況は1日当たりの交通量が約2万8,000台で県内でも上位の数値である。

▶質問

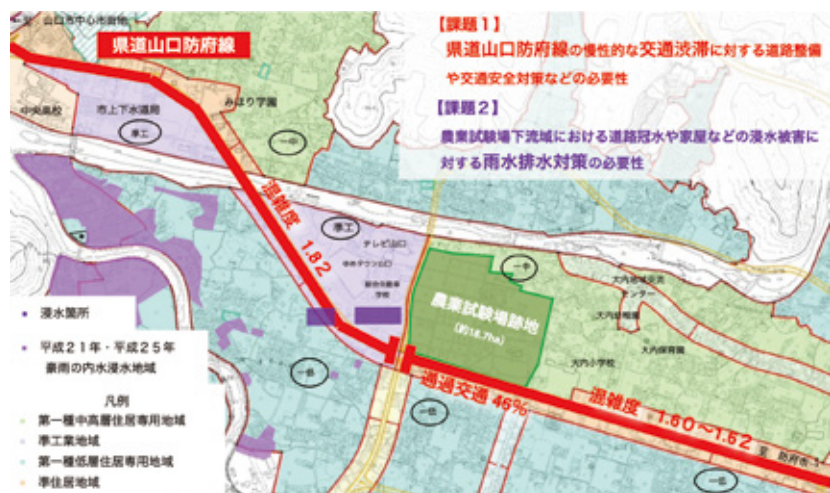
市道宮島町問田線は迂回路として利用されているが、この路線の今後の整備の見通しを伺う。

▶答弁

宮島町交差点から問田に抜ける市道で、小京都に抜ける道から中村橋に向けて整備している。この道路の沿線には住宅も非常に多く、生活道路としての性格を強く持っている路線である。今後、特に通行される歩行者、自転車に配慮しながら、渋滞対策の抜け道というものではなく、生活道路として安心安全な道路整備に努める。有利な財源として国からの補助金等を活用するというのが一番で、その他の有利な財源がなかなか無い状況で、整備完了までまだまだ年月を要する。

▶議会での主張

県農業試験場跡地前周辺の通過交通は約半数であり、広域的な道路としての渋滞対策や公共交通の利用促進の取組を要望する。



山口県農業試験場跡地周辺の課題(浸水・渋滞)

問田雨水ポンプ場の 完成について

▶質問

完成までにかかった総事業費と、問田地区周辺でのさらなる浸水対策について伺う。

▶答弁

令和2年度に事業着手をし、現地調査から測量、用地取得、実施設計を経て令和5年度から工事を実施し、昨年度末に無事完成した。総事業費は約2億5千万円となっている。また、今後の問田地区周辺での浸水対策については、県が問田川からの逆流を防止する樋門の整備工事を進めており、樋門を設置するための構造物の工事が完成している。今年度は残りの工事の樋門本体の設置と護岸の工事を、非出水期の11月頃に発注し進めると伺っている。

▶議会での主張

令和8年度策定の雨水総合管理計画には、他の浸水想定区域にも同様のポンプ場整備を盛り込み、引き続き浸水対策に努めることを要望する。



完成した問田雨水ポンプ場

交通安全対策について

▶質問

横断歩道のカラー化によって、もたらす効果について伺う。

▶答弁

白色のラインとラインの間を緑色で着色することで、ドライバーに対して視覚的に訴え、速度の抑制や注意喚起を促す効果がある。

▶質問

児童がより安全・安心して通学できるよう、小学校周辺の通学路において横断歩道をカラー化すべきと考えるが、具体的に施工を検討している横断歩道があるのか伺う。

▶答弁

ゾーン30等の規制がない大内南小学校周辺について横断歩道のカラー化が必要と認識している。児童が安心して通学できるよう交通安全対策として、横断歩道のカラー化が必要な箇所をしっかりと把握し、計画的に横断歩道のカラー化を実施する。



施工予定箇所の現状



カラー化後のイメージ

地域政党 やまぐちの風は、市民の皆様の声を大事にすることを第一の信条として活動していることから、市議会での議論について、自身が撮影した画像等と併せて、定例会ごとにわかりやすくお伝えしていくためにつくっているのがこの会報です。是非、ご覧いただき、お気軽にご意見等をお寄せいただければ幸いです。

